

# なお、ひき続き、〈現在〉を問う

●ドキュメンタリー・フィルム 16ミリ・カラー 110分



やられたら やりかえせ

## plan-B 〈定期〉上映

監督 佐藤満夫・山岡強一

2018年

# 5月19日(土)

5:30pm開場 6:00pm上映

plan-B (地下鉄丸ノ内線 中野富士見町5分) 予約●1000円  
当日●1200円

★上映後20時頃から〈ミニトーク〉★

## 掻き消された「声」に 耳をそばだてること

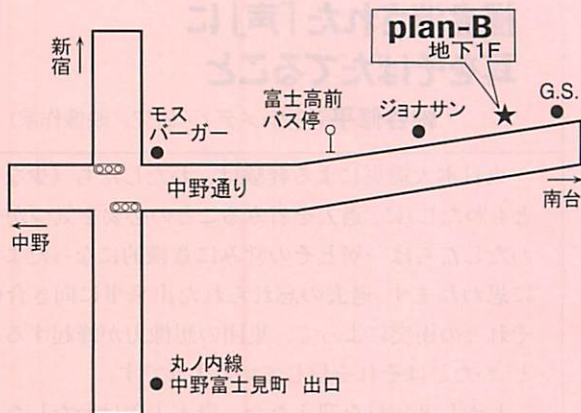
細谷修平 (美術・メディア研究/映像作家)

〈予約・問合せ〉

「山谷」制作上映委員会 ☎090-3530-6113(小見)

<http://www.sanyafilm.jp.org/>

★このチラシ持参の方、予約扱いします。



## plan-B

中野区弥生町4-26-20-B1  
(入口は中野通り沿い)  
☎03-3384-2051



この映画は一九八四年十二月二十二日、天皇主義右翼日本国粋会金町一家西戸組組員の兇刃によって虐殺された佐藤満夫監督の遺志をひき継ぎ、その後結成された「山谷」制作上映委員会を中心とした多くの仲間たちが協力し完成させたものである。

しかし、映画完成直後の八六年一月十三日、佐藤のあとを受け、実質的な監督として現場をリードした山岡強一が同じく金町一家

の放ったテロリストによって狙撃・射殺されるといふ事態にたち至った。私たちは、この二つの「死」に「この時代の暗黒」を見ざるを得ない。

山岡は、友人に宛てた手紙の中で、この映画の前提として

「①一九八四年十二月二十二日



佐藤満夫 山岡強一

日佐藤監督虐殺の現実、②それは山谷の現在、③同時に今日の時代状況、④しかも、労働者支配から労働者支配への開始、⑤この搾取と支配の二重構造の中に加速化される差別の現実、⑥それを統合し統治するものとしての天皇制、⑦天皇制という日本主義と資本自体の運動法則からする越境の亀裂は侵略戦争を必然化、⑧しかも、この支配権力の本質は、朝鮮、台湾に対する植民地支配とアジアに対する侵略戦争の延長、⑨従って、労働者支配と強制連行は天

皇制と侵略戦争動員を撃つものとして捉え返さねばならない」と書き記している。

山谷(寄せ場)の現実を映画に写し撮ろうとすることは、まさにこのようなことを透し見ることにほかならない。

この映画には実に様々な問題が詰め込まれている。路上手配と暴力支配、被差別部落問題、在日朝鮮人問題、先行的保安処分、地域排外主義、下層差別、そして台頭するファシズムの芽……。しかもそれらは別々に存在するのではなく、寄せ場に集中的にあらわれるこの国の差別・支配構造そのものでもあるのだ。映画に写し出されるひとつひとつの事柄は、寄せ場に固有の問題ではなく、私たちが生きているこの社会の隠された真相であり、日本近代化二〇〇年の実体である。

カメラは佐藤監督の「死」と、それに続く反撃の暴動に突き動かされ、寄せ場労働者の一日二年を追う、更に、現在の寄せ場の原点ともいえるべき地点にまで降りたついでだった。

しかしこの映画は、そうした「重い」テーマを背負いながらも、決して沈んだ表情は見せない。そうすることは、この地に住み、生活している者たちの流儀ではないからだ。社会から隔絶され、どこか遠くにあると思っている寄せ場は、私たちのすぐ横、すぐ隣りにあることがわかるだろう。それは、絶望の深さを知り抜いた者が、その果てにつかんだギリギリの明るさである。寄せ場はこの社会の「現在」を照らし出すと同時に、時代の「予感」を孕む磁力に満ちた「都市」そのものである。

★上映後 20 時頃から 〈ミニトーク〉★

掻き消された「声」に  
耳をそばだてること

細谷修平(美術・メディア研究/映像作家)

東日本大震災による経験は、わたしたち(少なくともわたし)に、過去を省みることの必要を気づかせ、わたしたちは一層とその営みに意識的になったように思われます。過去の忘れられた出来事に向き合い、それとの衝突によって、集団の想像力が蜂起すること。わたしはそれを信じているようです。

しかし8年目を迎えた今、資本主義はわたしたちのこうした気づきだけでなく、震災という出来事そ

のものを「ノスタルジー」として回収・消費し、2020年の東京五輪へと加速の一途を辿っています。国家による国民の歴史はいくらでもつくられるでしょう。それでは、人民による人民の歴史はどうでしょうか。

今回は、わたしが関心を持って研究に取り組む60年代70年代の政治と藝術の動向、80年代の光州民衆抗争とそれへの呼応などを通して、記録の可能性/不可能性について、みなさんと考える機会になればと思います。

映像メディアが氾濫し、ことばが軽んじられる現在においてこそ、「山谷」の上映会という「場」で対話と考察を深められればさいわいです。